

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、長崎市遠藤周作文学館様から「遠藤周作生誕100年記念事業」と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



遠藤周作生誕100年記念事業

長崎市遠藤周作文学館



角力灘に臨む遠藤周作文学館と道の駅「夕陽が丘そとめ」



遠藤周作文学館エントランスホール

長崎市遠藤周作文学館が立地する外海地区は、長崎市の北西に位置し、市内中心部から車で約50分、西彼杵半島南西部の五島列島を望む角力灘に面した丘陵地です。国道202号線を佐世保方面に進んでいくと、山間に赤煉瓦のカトリック黒崎教会があり、そこを過ぎてさらに北西へ坂道をあがると、道の駅「夕陽が丘そとめ」が見え、その小高い丘の下に角力灘を見下ろすようにして、岬の突端に文学館の白い建物が建っています。

1571年に宣教師らがこの地方の布教を始めたこととされ、以降

長崎市遠藤周作文学館

〒851-2327

長崎市東出津町77番地

TEL 0959-37-6011

FAX 0959-25-1443

特設サイト



X(Twitter)



Instagram



公式SNSで情報発信中!

害と弾圧の時代を乗り越えて、キリスト教の歴史と文化が脈々と受け継がれてきた地域です。遠藤周作は小説『沈黙』を書く前に外海に足を運び、地元のかくれキリシタンの帳方の家を訪ねるなどし、小説の構想に繋がる体験をしています。

のちに代表作となる『沈黙』(1966年刊)に禁教期のキリシタンの村として登場するヘトモギ村は遠藤が見た外海などをモデルにして描かれました。

遠藤周作は1923(大正12)年に生まれ、12歳のときにキリスト教の洗礼を受けました。(母親から



遠藤 周作

1923(大正12)年、東京に生まれる。昭和30年、『白い人』により第33回芥川賞を受賞。昭和41年、『沈黙』により第二回谷崎潤一郎賞を受賞。

著書に『海と毒薬』『おバカさん』『死海のほとり』『侍』『深い河』など多数。平成7年、文化勲章受章。1996(平成8)年9月、死去。



遠藤周作生誕100年記念事業ロゴ

遠藤周作

生誕 | 100th

沈黙と好奇心の旅へ

ENDO SHUSAKU
LITERARY MUSEUM

着せられた洋服)のように距離を感じたと言う西洋のキリスト教を日本人の心で実感できるような捉えなおすという課題を背負い、多くの文学作品を世に生みだしました。

当文学館は、2000(平成12)年5月に開館し、遺族のご厚意で寄託された蔵書、直筆原稿、ノート、愛用品などの約三万点の遠藤周作に関する資料を収蔵しています。展示室ではそれらの一部を展

示するとともに、遠藤周作が使用していた机と椅子が置かれ、生前(母の胎内にいるような空間)と称した書齋を再現しています。

そして、令和5年3月27日、遠藤周作が生誕して100年の日を迎えました。

長崎市では、令和4年度から5年度を遠藤周作生誕100年の記念の年とし、この貴重な唯一の機会を活かして遠藤文学の魅力を広ぐ市内外へ伝え、その功績を称えるとともに、それらを次世代につなぐための事業を実施しています。

この生誕100年記念事業の実施にあたっては、「出会う」「堪能する」「次世代へつなぐ」の3つの柱をコンセプトに据え、現在、日本中におられる多くの遠藤周作ファンの皆様に生誕100年を機に長崎を訪れていただくだけでなく、将来の遠藤周作ファンを増やすため、特に、若い世代のファンを増やすことで、遠藤文学の魅力等を次世代へつなぐことに力を入れたものとしています。



ここから、記念事業の内容を紹介いたします。

まず、当文学館において、生誕100年特別企画展「100歳の遠藤周作に出会う」を遠藤周作100歳の誕生日である令和5年3月27日から開催しています。

本展では、遠藤周作の文学と生涯を代表的な純文学作品『沈黙』



遠藤周作文学館で開催している生誕100年特別企画展

『死海のほとり』『侍』『スキャンダル』『深い河』を中心に巡り、現在まで続く遠藤文学の広がりを紹介するほか、ライフワークというべき『劇団樹座』『宇宙棋院』などのユニークな活動も紹介し、遠藤周作の全貌に迫ります。

そして、特別企画展の開幕にあわせ、「遠藤周作のすべて」と題した遠



遠藤周作文学館公式ガイドブック

藤周作文学館公式ガイドブックを刊行しました。これまで当文学館では、企画展などに合わせ、図録などを作成、販売していましたが、全体を網羅した冊子は今回が初めてとなります。

このガイドブックは、遠藤周作の文学と人生を資料写真やグラビア写真で詳しく解説し、書影付きの著書一覧、年譜、寄稿文などを収録した充実の内容となっています。

生誕100年記念事業では、



遠藤周作読書感想文コンクールポスター

遠藤作品に出演されるなど縁が深い著名人を長崎へ招き、作品映像の上映会とトークショーも開催します。

令和5年3月には、ドラマ『夫の宿題』の中で遠藤周作夫人である順子氏を演じられた竹下景子さんを迎え、トークショーとドラマ上映会を開催しました。

令和5年9月には、映画『沈黙・サイレンス』の中で重要人物キチジローを演じた窪塚洋介さんを迎



生誕100年記念事業公式Instagram



遠藤周作生誕100年記念文集「遠藤周作とのめぐりあい」

え、トークショーと映画上映会を開催しました。

また、遠藤周作の魅力や生誕100年記念事業の取組みを一人でも多くの方に届けるため、X(ツイッター)・インスタグラムといった公式SNSや特設サイトを開設し、全国に向けて効果的に情報発信を行っています。

さらに、遠藤周作に思い入れのある文化人、アーティストなどの寄稿をまとめた「遠藤周作生誕100年記念文集」を発刊しました。

そして、若い世代が遠藤文学へ触

れる機会を創出するとともに、遠藤文学や当文学館の周知を図るため、

今年は生誕100年記念「遠藤周作読書感想文コンクール」を実施し、これまで遠藤文学を知ることがなかった方にも、このコンクールが遠藤文学の魅力に触れる新たな入口になればと考えています。

また、遠藤周作と交流のあった方など縁のある人たちが語るエピソードや、遠藤周作及び当文学館について理解を深めるための映像等を収録したアーカイブ映像の制作を現在進めています。完成した映像は当

文学館で公開するほか、修学旅行で来館してもらう学生の皆さんも事前学習にも活用していただくことも予定しています。

このような取組みからも多くの方に遠藤周作に出会ってもらい、遠藤周作及び遠藤文学の魅力を次世代に継承していく仕組みを作っていきたいと考えています。

さらに当文学館では、来館して遠藤周作を堪能した思い出を持ち帰り、いつでも思いを馳せることができるよう、公式ガイドブックをはじめ、トートバッグや記念切手、遠藤周作



生誕100年記念オリジナルグッズ

の名言を記した日めくり万年カレンダーなど、生誕100年記念のオリジナルグッズを販売しています。

最後に、長崎市遠藤周作文学館には、遠藤家ご遺族のご厚意から多くの資料を寄託していただいております。当文学館に來ないと見ることができない貴重な資料を展示しています。遠藤周作ファンの方はもちろん、遠藤周作に初めて接する方もぜひ当文学館にお越しいただき、100歳の遠藤周作との出会いを堪能されることをスタッフ一同、心よりお待ちしております。